

## I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月まで(5年)

### 1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、姫路駅を中心とするエリア約 222ha を対象区域に、令和2年4月から令和7年3月までを計画期間とする「姫路市中心市街地活性化基本計画」（以下、「前計画」）を策定し、「国内外の人々が行き交い愛され、市民が愛着をもつ城下（まち）」を基本テーマに掲げ、この実現に向けて4つの基本方針と4つの目標を設定し、目標に沿った事業展開として、市街地の整備改善、都市福祉施設の整備、まちなか居住の推進、経済活力の向上、公共交通機関の利便増進等を目的とする計 39 事業に取り組んだ。

令和2年初頭から世界的に猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症は、当市中心市街地にも多大なる影響を及ぼしており、特に目標指数のうち、まちなかのにぎわいを捉える「歩行者・自転車等通行量」においては数値の悪化が顕著であった。令和5年度以降は回復傾向が見られるものの、令和6年度の数値とコロナ禍前の令和元年度の数値を比較すると、駅周辺の調査地点は増加している一方、その他の調査地点では数値は7割程度しか回復しておらず、地点によっては5割程度であり、駅から離れるほど通行量が戻っていない。「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指す姫路市ウォークブル推進計画に基づき、公民が連携し、快適な歩行空間の創出や公共空間の利活用等を通して来街動機となる取組みやエリアを複数創り出すことで、駅前のみならず中心市街地全体で回遊性を向上させることが必要である。

令和3年9月に開館したアクリエひめじは、知名度向上を目的としたオープニングシリーズを3か年にわたり実施し、様々なイベントの開催により中心市街地のにぎわいに寄与した。

アクリエひめじに続き、兵庫県立はりま姫路総合医療センターも整備が完了し、令和4年5月に開院した。高度医療や救急医療等の充実のみならず、地域医療を担う人材育成にも寄与し、播磨地域の医療をリードする施設が開院したことで、中心市街地における都市機能が更に向上し、中心市街地の居住者の増加につながった。

姫路駅から姫路城をつなぐ当市のメインストリートである大手前通りでは、これまで歩行者道路の利活用を通して「歩いて楽しい道」としてのエリア価値創出に取り組んできたが、令和5年より更なるエリア魅力向上の一環として、新たに「大手前通りイルミネーション事業」も開始し、民間事業者等が同時期に実施するイルミネーションイベント等と行政が連携してPR等を行い、ナイトタイムにおける中心市街地のにぎわい創出につながった。

また、リノベーションまちづくりに取り組む姫路駅西エリアでは、若手事業者を中心に遊休不動産の活用を通じ、地域住民と連携しながらエリア価値の向上につながる魅力的な目的地づくりに寄与した。

中心市街地活性化に向けて、引き続き中心市街地の課題に対応するとともに、これまでの3期にわたる基本計画で創出した姫路駅周辺や姫路城等の高質なストックを活かし、何度も訪れたい魅力あるまちづくりを目指す。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

(1) 居住人口 (基準日：毎年度3月31日時点) (単位：人)

(中心市街地 区域)	令和元年度	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	10,801	10,949	10,951	10,950	11,083	11,427
人口増減数		145	2	▲1	133	344
自然増減数		0	▲28	▲22	▲34	▲10
社会増減数		145	30	21	167	354
転入者数		1,411	1,243	1,331	1,393	1,856

※令和6年度分の数値は令和7年4月24日時点のもの

(2) 小売販売額 (万円) (単位：百万円)

	平成28年 ※前回調査時	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
市全体	57,804,021		55,073,750			

※経済センサスより

(3) 事業所数 (単位：件)

	平成28年 ※前回調査時	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
市全体	5,044		4,701			

※経済センサスより

(4) 地価 (単位：円/㎡)

	令和元年度	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
呉服町32番	430,000	420,000	412,000	410,000	413,000	416,000
駅前町252番	1,700,000	1,620,000	1,590,000	1,590,000	1,610,000	1,630,000
西二階町22番	152,000	152,000	152,000	152,000	152,000	155,000
忍町88番外	268,000	269,000	269,000	270,000	280,000	295,000
豊沢町129番	235,000	235,000	236,000	240,000	243,000	249,000
東延末1丁目4番	510,000	510,000	510,000	517,000	528,000	537,000
延末1丁目100番	102,000	103,000	104,000	105,000	107,000	109,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

**【進捗・完了状況】**

- ①概ね予定通り進捗・完了した      ②予定通り進捗・完了しなかった

**【活性化状況】**

- ① 活性化した  
②若干活性化した  
③計画策定時と変化なし  
④計画策定時より悪化

### 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

前計画では市街地の整備改善、都市福祉施設の整備、まちなか居住の推進、経済活力の向上、公共交通機関の利便増進等を目的とする計39事業に取り組んだ。

中止事業と未実施事業はなく、予定通り事業進捗、完了した。

「歩行者・自転車通行量」については、86,324人で目標値110,000人を下回った。要因として、計画期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、国内全域的に人流が大きく減少したことが挙げられる。令和5年度以降は、回復基調にあるがコロナ禍を経て生活スタイルの一部が変容したためか、令和元年度以前の人流まで回復するには至らず、目標値には届かなかった。

「新規出店店舗数」については、152店舗で目標値60店舗を大きく上回った。要因として、「中心市街地空き店舗対策事業」や「街なか創業支援事業」による新規出店者への支援制度の利用促進による効果も大きい。新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、経営が悪化した店舗が令和2年度以降に多く退店し、令和3年度以降には一時的に増加した居抜き物件に出店する事業者が増加したことも要因として挙げられる。

一方、補完目標の「空き店舗数(補完目標)」については、35店舗と目標値26店舗を達成できなかった。要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出抑制により店舗の利用が減少した影響からか、令和2年度に空き店舗数が増加した。新規出店店舗数はコロナ禍において伸長は見せた一方、空き店舗数については令和3年度以降減少が緩やかであった。新規出店数と空き店舗数の減少数に乖離があることから、中心市街地内の商店街においては一定の出退店サイクルが形成されており、総体として空き店舗数に変化が無い可能性が考えられる。

「居住者数」については、11,427人と目標値10,820人を上回った。要因として、第1期から第3期に至るまでの中心市街地活性化基本計画の記載事業の成果により居住快適性が向上した結果と考えられる。姫路駅前の整備による公共交通(バス等)の利便性向上、生活利便性の高い商業施設のオープンや姫路駅周辺や大手前通りにおける歩行者優先の空間の整備により、中心市街地で暮らすことに対する魅力が向上し、それに伴い民間事業者によるマンション建設が相次ぎ、まちなかにおける居住先が増えたことも居住者数増加を強力に後押ししている。

補完目標の「来街者の中心市街地での滞留時間」については、215.8分と目標値180分を上回った。要因として、回遊先が広がったことが考えられる。令和4年度の調査においては「立ち寄り先」の回答のうち駅前商業施設以外の回答は20%に満たず、令和6年度は駅から離れたスポットの回答率が増加しており、来街者の訪問先が駅前から中心市街地内の複数のエリア・施設へ波及していることが読み取れる。また、観光目的の来街者の割合の増加も顕著で、基準値である令和元年度の観光目的での来街者の割合は10.9%、令和4年度では4.0%であったが、令和6年度は24.6%と増加している。コロナ禍を経て社会が新しい生活様式に適応し、以前よりも多くの観光客が中心市街地に来街していることがうかがえる。大手前通り魅力向上事業やウォーカーブル推進事業を実施し、公民が連携し公共空間に滞留スペースを創出した結果、中心市街地での過ごし方の幅が広がったと考えられる。

### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

#### 【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

### 【詳細を記載】

新型コロナウイルス感染症は、当市中心市街地にも多大なる影響を及ぼしており、目標指数のうち、「歩行者・自転車通行量」と「空き店舗数」については、未達成という結果になった。一方「新規出店店舗数」、「居住者数」、「来街者の中心市街地での滞留時間」については、目標値を達成した。姫路市中心市街地活性化協議会としては、第3期計画が概ね適切に実施されたと評価する。

3期計画中に、姫路市文化コンベンションセンター整備事業、県立播磨姫路総合医療センター整備事業が完了した。4期計画においては3期計画において完了したハード事業を活用しつつ、地域の魅力を高めていくソフト事業にも注力し、経済の好循環を生むことを念頭に取り組むことが重要である。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ② 活性化した
- ② 若干活性化した
- ③ 計画策定時と変化なし
- ④ 計画策定時より悪化

### 【詳細を記載】

姫路市市民アンケート

調査日：令和6年8月16日（金）～令和6年9月13日（金）

調査対象：・中心市街地内居住者 1,500名  
・中心市街地外居住者 1,500名  
計 3,000名（20歳以上の市内居住者から無作為抽出）

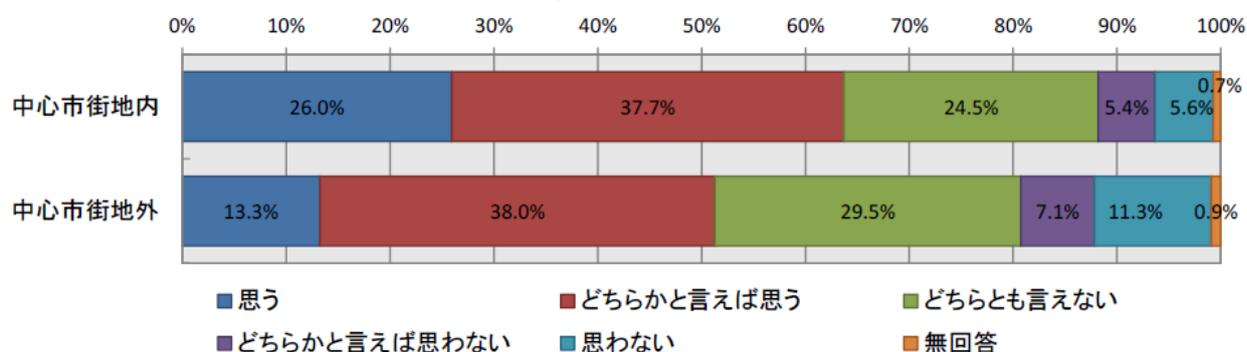
調査方法：・調査票を郵送で配布し、調査票を郵送返信にて回収もしくは、WEBサイトより回答

有効サンプル数：1,101名

計画期間前後で、「中心市街地に、にぎわいがあるか」という市民意識は改善していることに加え、「中心市街地の魅力」についても向上したという意見が多かった。

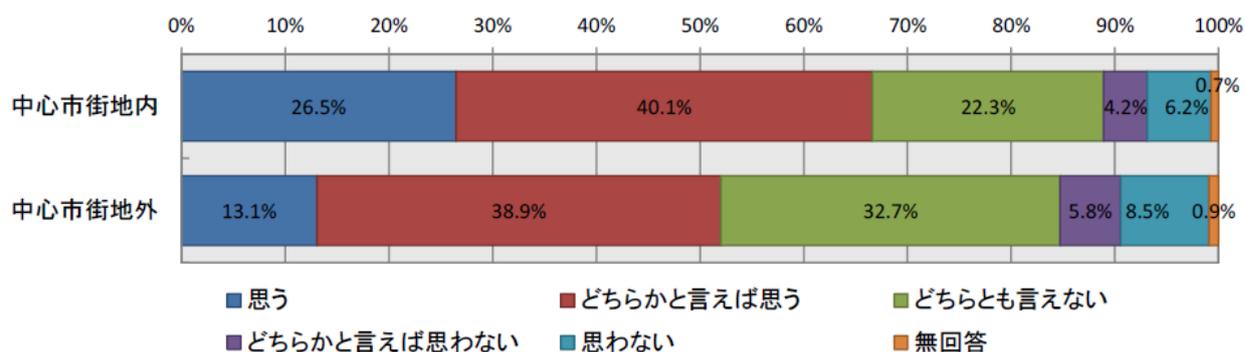
### <「中心市街地に、にぎわいがあるか」という設問について>

最近5年間で、中心市街地は行きたい場所になりましたか。



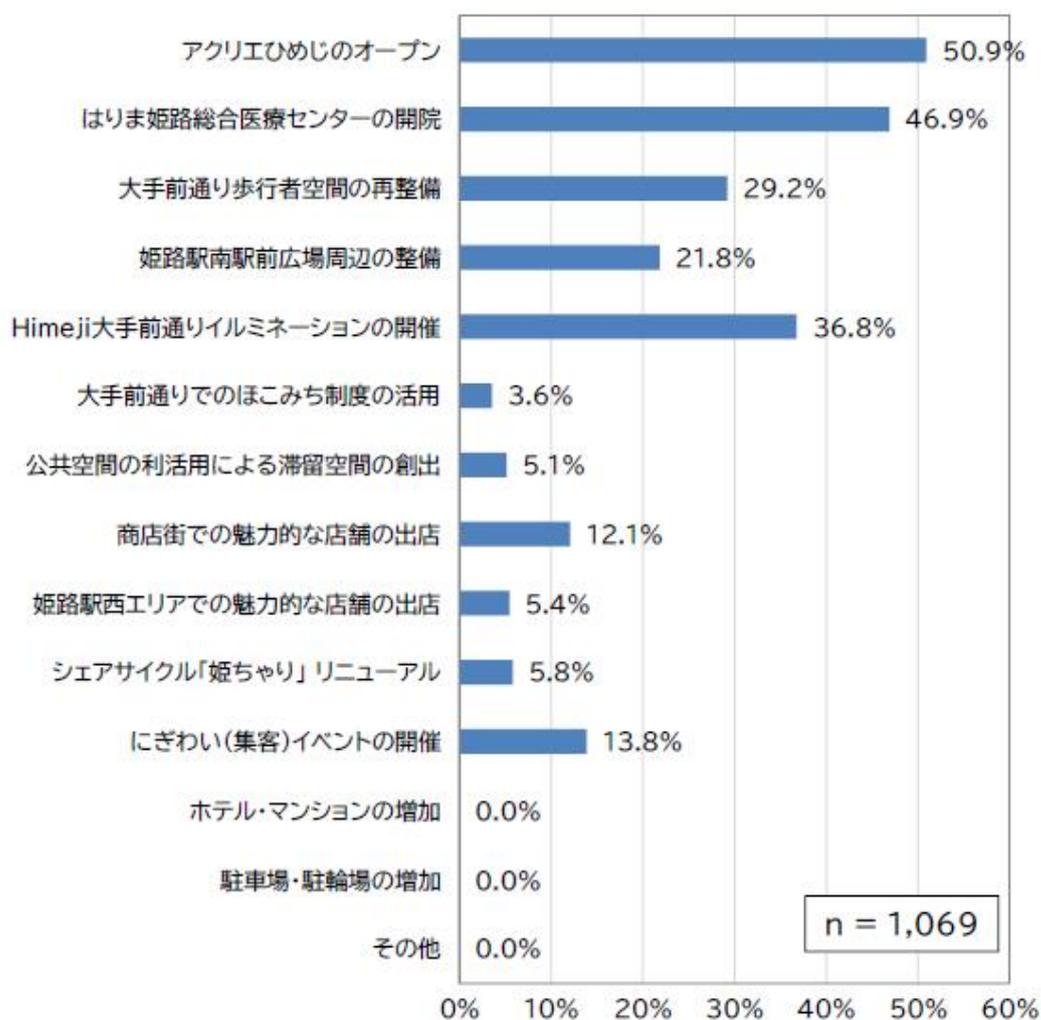
中心市街地内居住者では、中心市街地は「行きたい」、または、「どちらかと言えば行きたい」場所になった、との肯定的な回答があわせて63.7%、中心市街地外居住者では51.3%と、居住地に関わらず半数以上の人々が中心市街地に対して肯定的な回答となっている。

### 最近 5 年間で、中心市街地のにぎわいは高まったと思いますか。



中心市街地内居住者では「思う」、または、「どちらかと言えば思う」との肯定的な回答があわせて 66.6%、中心市街地外居住者では 52% と、居住地に関わらず半数以上の方が中心市街地に対して肯定的な回答になっている。

### 最近 5 年間の中心市街地の取組み等で特に良かったと思うことはどんなことですか。



中心市街地の取組み等では、「アクリエひめじのオープン」「兵庫県立はりま姫路総合医療センターの開院」「Himeji 大手前通りイルミネーションの開催」が、特に評価が高くなっている。

## 6. 今後の取組

これまでの3期にわたる基本計画で創出した姫路駅周辺や姫路城等の高質なストックを活かし、何度も訪れたい魅力あるまちづくりを目指す。このため、多様な人が楽しめる”にぎわい創出”、誰もが居心地のよいと感じる空間づくりによる”滞留・回遊性向上”に向けた事業を展開することにより、『国内外の人々が行き交い、多様な人々に愛される持続可能な城下まち』を基本テーマとして、以下4つの基本的な方針を設定し、各種事業を実施する。

### ① 行きたい城下まち—国内外の人々が訪れ、回遊するまちづくり—

居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちなかを推進することで、訪れる人が魅力を感じ、また来たいと思うようなまちなかをめざすとともに、姫路に暮らす人が、街への誇りと愛着が持てるまちなかの実現を目指す。

### ② にぎわう城下まち—魅力ある経済活力を目指したまちづくり—

既存商店街はもちろん、若者や女性等の創業を支援することで、まちなかの経済活力の向上を目指す。

### ③ 住み続ける城下まち—誰もが住み続けることができるまちづくり—

子ども・若者・女性・高齢者等の多様な人が居心地よく、安心・安全で健康に暮らすことができるまちなかをめざす。

### ④ 市民が主役の城下まち—市民が躍動できるまちづくり—

行政とまちなか関係者が課題を共有しながら、民主導によるエリアマネジメントの構築を目指す。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する目標指標に基づく評価を行い、PDCA サイクルを継続する。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
国際観光都市「姫路」ブランドの確立	歩行者・自転車通行量	106,266 人/日 (H27～R1 の平均値)	110,000 人/日 (R6 年度)	109,253 人	86,324 人	R6	C
姫路城、商店街、駅前を結ぶ魅力の創出	新規出店店舗数	11 店舗(1 年間) (H29.12～H30.12)	60 店舗(5 年間) (R2 年度～R6 年度の累計)	50 店舗	152 店舗	R2～R6	A
	空き店舗数(補完目標)	31 店舗 (H30 年度)	26 店舗 (R6 年度)	27 店舗	35 店舗	R6	C
楽しさと安心感のある多世代居住の推進	居住者数	10,520 人 (H30 年度)	10,820 人 (R6 年度)	10,760 人	11,427 人	R6	A
持続可能なエリアマネジメントの構築	来街者の中心市街地での滞留時間(補完目標)	156.6 分/人 (R1 年度)	180.0 分/人 (R6 年度)	175.3 分/人	215.8 分	R6	A

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

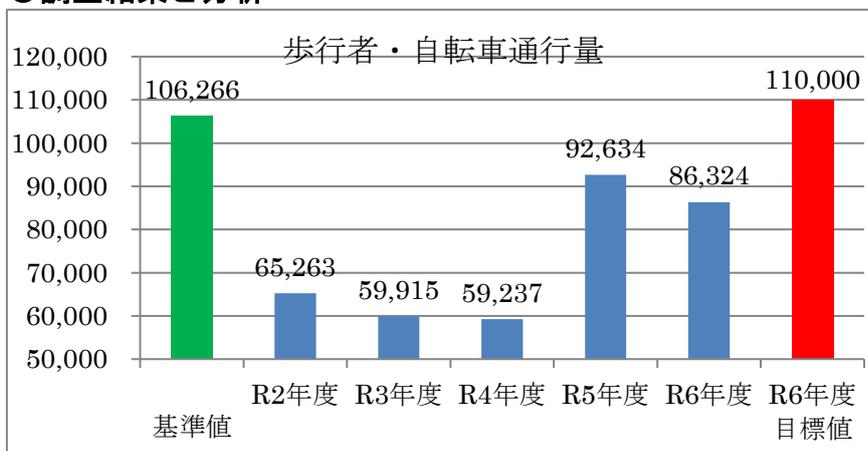
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。(例：a、b1、b2、c)

### 2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

#### (1) 「歩行者・自転車通行量」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 89～P. 93 参照

#### ●調査結果と分析



(単位：人)

H27～R1	106,266 人/日 (基準値)
R2	65,263 人/日
R3	59,915 人/日
R4	59,237 人/日
R5	92,634 人/日
R6	86,324 人/日
R6	110,000 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査、毎年4月29日に10点において10時～18時で計測

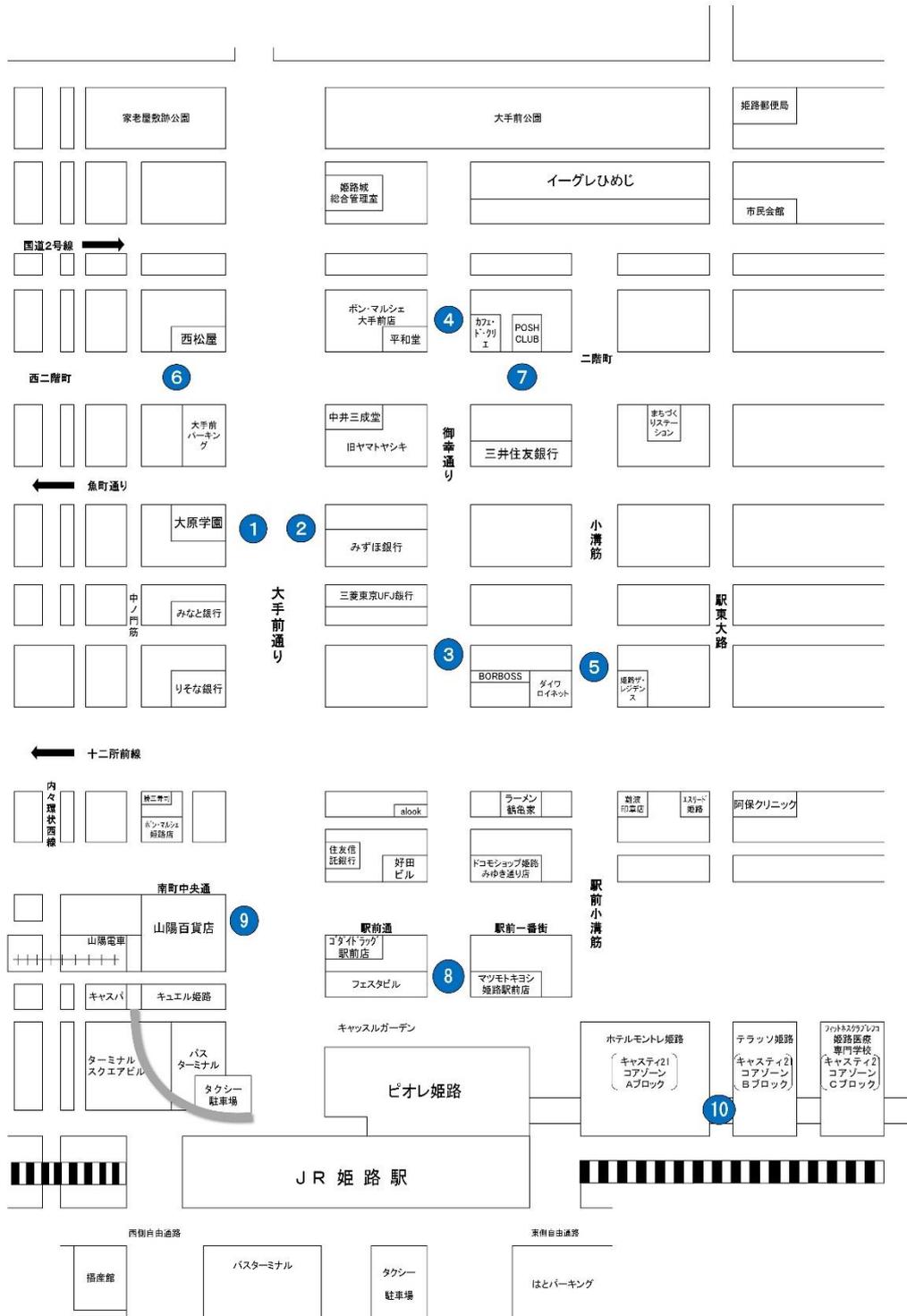
※調査月：令和6年4月

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内10地点における歩行者及び自転車の通行量



中心市街地通行量調査(位置図)



	令和元年度 (※)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点1	7,884	2,968	2,932	1,379	3,951	3,823
地点2	8,026	2,388	2,730	811	3,714	3,840
地点3	20,023	11,102	9,648	10,688	15,394	13,167
地点4	16,162	6,495	6,292	6,953	11,927	11,337
地点5	6,459	4,303	3,563	3,456	5,421	4,447
地点6	4,709	2,402	2,488	2,539	3,319	3,949
地点7	7,171	3,770	3,365	3,641	4,756	4,996
地点8	23,192	19,156	15,982	17,025	24,409	23,400
地点9	12,096	7,767	7,169	4,061	9,534	7,292
地点10	7,637	4,912	5,746	8,684	10,209	10,073
合計	113,359	65,263	59,915	59,237	92,634	86,324

※計画上の基準値は平成27年から令和元年の平均値であるが、主要地点が一致している令和元年度の数値を記載

### <分析内容>

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」へ移行された令和5年度以降は回復基調にあるが、コロナ禍を経て生活スタイルの一部が変容したためか、令和元年度以前の人流まで回復するには至らず、目標値には届かなかった。

一方、基準値の算定期間である平成27年度から令和元年度の来訪者が、平常時よりも多い状態であった可能性がある。平成26年には姫路城ゆかりの人物：黒田官兵衛を題材にした大河ドラマが放送され、翌年3月には平成の大修理を終えた姫路城がグランドオープンを迎えたことで、平成27年度姫路市総入込客数は過去最大(11,902千人)となった。

中心市街地を含む姫路城周辺の観光施設の入込客数も平成27年度に過去最大(4,402千人)の数値となっており、一時的な“ブーム”が到来していたことがうかがえる。コロナ禍を経た令和5年度および令和6年度は人流が落ち着いており、直近二か年の結果が平常時の数値に近いものと考えられる。

### ●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

#### ①. 大手前通りエリア魅力向上推進事業(姫路市、民間等)

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	再整備された大手前通りにおいて、人が滞留しにぎわう魅力的な空間を目指し、大手前通りのエリア価値向上に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(姫路城周辺地区))(国土交通省)(令和2年度～令和5年度)
事業目標値・最新値	【事業目標値】歩行者・自転車通行量：820人/日

及び達成状況	<p>【最新値】令和6年度：7,663人/日【令和元年度（15,910人/日）比▲8,247人/日】（地点1,2）</p> <p>大手前通りにおける令和6年度の通行量は7,663人/日（地点1及び2の合算値）となり、前年度（7,665人/日）とほぼ横ばいになっている。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>コロナ禍による生活スタイルの変容と、基準値の算定期間の一時的なブームによる増加が原因と考えられる。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>大手前通りは令和3年2月に全国初の歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）に指定され、令和4年5月には沿道の民間事業者からなる大手前通り街づくり協議会が道路占有者として、民間のノウハウを活かした公共空間の利活用が可能な体制が整えられた。沿道店舗がテーブルやイス等を設置し日常的な滞留空間を演出する「常設エリア」と、キッチンカーやテントの一時設置が可能な「イベントエリア」の2種類の運用で、大手前通りのにぎわい創出を図っている。また、令和5年度からは、冬季に大手前通りにてイルミネーション事業を実施しており、ほこみちの活用と合わせて滞留したくなる空間の創出に寄与している。</p>
事業の今後について	<p>「歩いて楽しい、大好きなお城への道～「ひと」が集い「まち」とつながる大手前通り～」をコンセプトに再整備された大手前通りにおいて、人が滞留し、にぎわいのある魅力的な空間創出を目指し、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度による日常的な活用及びイベント活用を通じて大手前通りのエリア価値向上に取り組む。</p>

②. 姫路市文化コンベンションセンター整備事業（姫路市、民間等）

事業実施期間	平成27年度～令和2年度【完了】
事業概要	<p>播磨の連携中枢都市にふさわしい交流の拠点施設として、文化コンベンションセンター及び周辺施設を整備し、姫路駅から東西に広がる新しい人の流れを創出する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（キャストイ21 イベントゾーン周辺地区））令和2年度</p>
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>【事業目標値】歩行者・自転車通行量：1,200人/日</p> <p>【最新値】令和6年度：1,005人/日（地点43）</p> <p>該当箇所における令和6年度の通行量は7,663人/日（地点43）となり、前年度（892人/日）と前年度から増加している</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年2月に竣工し、同年9月より今日を開始した。供用開始後、音楽や演劇等の公演やイベントが開催され、中心市街地の活性化に寄与しているが、コロナ禍による生活スタイルの変容と、基準値の算定期間の一時的なブームによる増加が原因で目標値には到達しなかった。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和3年2月に竣工し、同年9月より今日を開始した。</p> <p>多彩な音楽や演劇等の公演、産業展示会、学術会議その他催事の開催により、文化芸術による市民文化の振興並びに都市魅力の創造及び発信を図るとともに、ものづくり力の強化、</p>

	地域ブランドの育成及び交流人口の増加による都市成長力の強化を図るものであり、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	〔事業終了〕
<b>③. 中心市街地空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）</b>	
事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	空き店舗への出店に対する支援を行うとともに、テナントミックス等により必要な業種・業態の適正配置を図り、新たな魅力ある店舗等の出店を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】歩行者・自転車通行量：580人/日 【最新値】 令和6年度：4店舗×60人＝240人 令和5年度：11店舗×60人＝660人 ※当事業による令和6年度の新規支援件数は4件であり、昨年度の11件から減少した。
達成した（出来なかった）理由	商店街関係へのヒアリングを行い、制度内容を変えるなどして、期待された効果が発現しているものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	目店舗の入れ替わりが激しく、地域に密着した店舗が育ちにくい環境になりつつある等、新たな課題が可視化されつつある。
事業の今後について	市が商工会議所や商店街と連携し、中心市街地の商店街の空き店舗への出店希望者に対し、改修に係る経費の一部を補助する。創業のノウハウを身に着けるセミナーの受講を条件に付すことで、ワンパッケージ支援となっている。課題や時流に応じて要綱を見直すことで、中心市街地の商店街における出店を促し、来街者増加を図る。
<b>④. 街なか創業支援事業（姫路市）</b>	
事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等へ支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】歩行者・自転車通行量：580人/日 【最新値】 令和6年度：4店舗×60人＝240人 令和5年度：3店舗×60人＝180人 ※当事業による令和6年度の支援実績は4件で、昨年度実績の3件から増加した。
達成した（出来なかった）理由	スタートアップ時に必要な経費を支援することで、中心市街地で創業しやすい環境づくりに寄与しているため。
計画終了後の状況	新規で魅力ある店舗が出店することにより、商店街以外

及び事業効果	のエリアにおいても人の流れが生まれ、にぎわい創出とエリアの活性化につながっている。
事業の今後について	空き店舗を活用して創業する事業者へ、改修費および広告宣伝費の一部を補助し、まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を促し、来街者増加につなげる。

#### ⑤. 姫路駅周辺土地区画整備事業(姫路市)

事業実施期間	平成元年度～令和6年度【実施中】
事業概要	JR山陽本線等の高架用地の確保、姫路駅を中心とする南北市街地の一体化及び駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備等により、「姫路の顔づくり」「播磨の顔づくり」としてふさわしい街区の形成を図る
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（道路事業）令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】歩行者・自転車通行量：1,130人/日 【最新値】300人×3.5/週×6ポイント≒900人 来街者調査結果による中心市街地居住者の来街頻度 令和元年 4.4回 令和6年 3.5回
達成した(出来なかった)理由	整備事業により中心市街地の居住者の増加にはつながったが、コロナ禍による生活スタイルの変容による来街頻度の減少に伴い、達成できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	駅北側の都市基盤施設の整備を進めることで南北市街地の一体化が進み、都市機能が向上することで、歩行者にとっても快適な街になるようにする。
事業の今後について	駅北の都市基盤施設の整備を進めることで、市街地の一体化を図る交通体系を確保し、駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備改善を行うとともに、新都市拠点としてふさわしい街区の形成を図る。

#### ⑥. 駅南土地区画整理事業(姫路駅南西地区)(姫路市)

事業実施期間	平成19年度～令和6年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西地区の土地区画整理事業の施工により、都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】歩行者・自転車通行量：1,130人/日 【最新値】300人×3.5/週×6ポイント≒900人 来街者調査結果による中心市街地居住者の来街頻度 令和元年 4.4回 令和6年 3.5回
達成した(出来なかった)理由	整備事業により中心市街地の居住者の増加にはつながったが、コロナ禍による生活スタイルの変容による来街頻度の減少に伴い、達成できなかった。

計画終了後の状況及び事業効果	駅南側の都市基盤施設の整備を進めることで南北市街地の一体化が進み、都市機能が向上することで、歩行者にとっても快適な街になるようにする。
事業の今後について	本地区は公共施設の整備が不十分なまま市街化し、土地利用が無秩序に混在化していたことから、本事業は、都市基盤施設の整備改善並びに宅地の利用増進を図り、姫路市の主核に相応しい計画的な市街地として再生することを目指す。

### ⑦. 県立はりま姫路総合医療センター連携事業（姫路市）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	【必要性】 播磨姫路圏域において安定的・継続的に高度で良質な医療を提供できる体制を構築するとともに、地域医療人材の確保にも取り組む事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 歩行者・自転車通行量：1,130人/日 【最新値】 300人×3.5/週×6ポイント≒900人 来街者調査結果による中心市街地居住者の来街頻度 令和元年 4.4回 令和6年 3.5回
達成した（出来なかった）理由	整備事業により中心市街地の居住者の増加にはつながったが、コロナ禍による生活スタイルの変容による来街頻度の減少に伴い、達成できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	安定した地域医療を提供できる環境整備することでまちなかでの居住快適性が高まり、来街者の増加に寄与した。
事業の今後について	順次機器及び病床を拡充させ、広域的な活力向上に貢献する都市機能の充実を図る。

#### ●今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、新型コロナウイルス感染症による人流減少から回復しきっておらず、基準値に届かず、想定していた成果は上げられなかった。

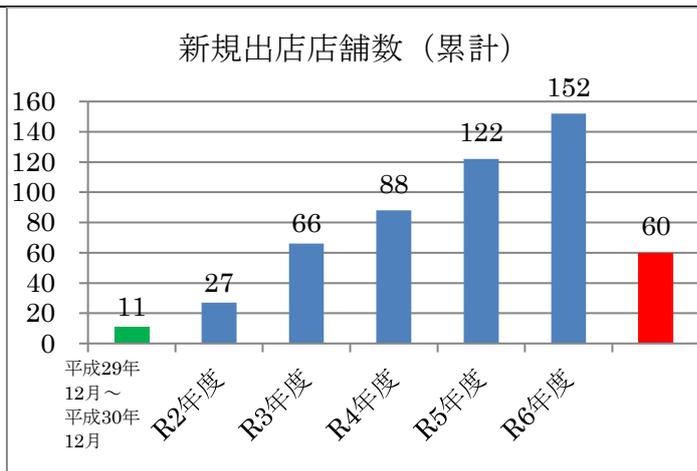
今後は、姫路城を訪れる外国人観光客の回遊性向上及び、ウォークブル推進計画に基づくエリアの活性化に伴い、検証区域かつ重点区域である「大手前通りエリア」「駅西エリア」において、日常的な公共空間利活用が進み、足を運んで訪れたいエリアを目指すことで、中心市街地全体の回遊性向上を目指し、通行量の目標値を91,000人とする。

#### （2）「新規出店店舗数」（目標の達成状況【A】）

※目標設定の考え方は認定基本計画 P.94 参照

#### ●調査結果と分析

年度	数値
H29.12～ H30.12	11店舗（基準値）



R2	27 店舗
R3	66 店舗
R4	88 店舗
R5	122 店舗
R6	152 店舗
R2～R6 累計	60 店舗（目標値）

- ※調査方法： 調査員による現地調査（四半期ごと）
- ※調査月： 令和6年4月～令和7年3月
- ※調査主体： 姫路市
- ※調査対象： 中心市街地 15 商店街

### <分析内容>

新規出店店舗数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。  
 空き店舗対策事業や街なか創業支援事業等、中心市街地での新規出店に対する支援メニューの活用が進んだことで、出店・継続しやすい環境が整備されている。結果として目標値を大きく上回る 152 店舗が中心市街地において新規出店しており、期待された効果が発現しているものと考えられる。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、経営が悪化した店舗が令和2年度に多く退店し、翌年令和3年度には一時的に増加した居抜き物件に出店する事業者が増加した。近場での買い物需要が増加したため、従来の出店地域を見直し、一定の人の往来が見込める商店街への出店に方針転換した店舗や、感染症拡大防止のためテイクアウト中心に業態を転換しての出店等、コロナ禍に対応した柔軟な新規出店も見られた。

### ●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

#### ①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	空き店舗への出店に対する支援を行うとともに、テナントミックス等により必要な業種・業態の適正配置を図り、新たな魅力ある店舗等の出店を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 令和6年度までの新規出店店舗数(累計) 60 【最新値】 令和6年度までに152店舗が新規出店 当事業による令和6年度の新規支援件数は4件であり、昨年度の11件から減少した。
達成した(出来なかった)理由	商店街関係へのヒアリングを行い、制度内容を変えるなどして、期待された効果が発現しているものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	目標値は達成しているものの、店舗の入れ替わりが激しく、地域に密着した店舗が育ちにくい環境になりつつある等、新たな課題が可視化されつつある。

事業の今後について	市が商工会議所や商店街と連携し、中心市街地の商店街の空き店舗への出店希望者に対し、改修に係る経費の一部を補助する。創業のノウハウを身に着けるセミナーの受講を条件に付すことで、ワンパッケージ支援となっている。課題や時流に応じて要綱を見直すことで、中心市街地の商店街における出店促進を目指す。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ②. 街なか創業支援事業（姫路市）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等へ支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】令和6年度までの新規出店店舗数(累計)60 【最新値】令和6年度までに152店舗が新規出店 当事業による令和6年度の支援実績は4件で、昨年度実績の3件から増加した。
達成した(出来なかった)理由	スタートアップ時に必要な経費を支援することで、中心市街地で創業しやすい環境づくりに寄与しているため。
計画終了後の状況及び事業効果	新規で魅力ある店舗が出店することにより、商店街以外のエリアにおいても人の流れが生まれ、にぎわい創出とエリアの活性化につながっている。
事業の今後について	空き店舗を活用して創業する事業者へ、改修費および広告宣伝費の一部を補助し、まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等が挑戦しやすい環境づくり及び支援を行う。

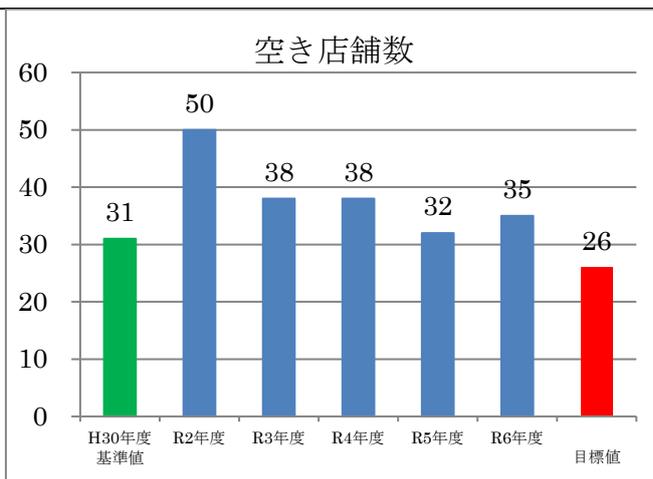
### ●今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い令和2年度には多数の閉店が発生したが、翌年の令和3年度には居抜き物件を活用し出店数が増加する等、新型コロナウイルス感染症による突き上げや家賃補助メニューの活用による出店サイクルによる数値の下支えが見られた。一方、商店街に店舗が定着せず、地域に密着した店舗が育ちにくい等の課題が新たに問題視されるに至ったことから、中心市街地空き店舗対策事業の要綱見直し等により、引き続き中心市街地の商店街の新規出店の促進および住居一体型店舗の活用対策を実施することで、年間で31店舗の新規開店を目指す。

### 補完目標「空き店舗数」（目標の達成状況【C】）

※目標設定の考え方は認定基本計画 P.95 参照

### ●調査結果と分析



年度	数値
H30	31 店舗 (基準値)
R2	50 店舗
R3	38 店舗
R4	38 店舗
R5	32 店舗
R6	35 店舗
R6	26 店舗 (目標値)

※調査方法： 調査員による現地調査（四半期ごと）

※調査月： 令和6年4月～令和7年3月

※調査主体： 姫路市

※調査対象： 中心市街地 15 商店街

### <分析内容>

空き店舗数減少に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

中心市街地の商店街における空き店舗数は目標値を下回った。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出抑制により店舗の利用が減少した影響からか、令和2年度に空き店舗数が増加した。新規出店店舗数はコロナ禍において伸長は見せた一方、空き店舗数については令和3年度以降減少が緩やかであった。新規出店数と空き店舗数の減少数に乖離があることから、中心市街地内の商店街においては一定の出退店サイクルが形成されており、総体として空き店舗数に変化が無い可能性が考えられる。調査結果を分析し、入れ替わりの激しい物件が多いエリアや長期間空き店舗となっている物件が多いエリア等、エリアごとの特徴を把握し、課題の更なる抽出が必要である。

### ●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

※数値目標(2)「新規出店店舗数」に記載したものと重複するため省略

【事業目標値】令和6年度末の空き店舗数: 26

【最新値】令和6年度末の空き店舗数: 35

「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「街なか創業支援事業」により、新規出店店舗数は多いものの、空き店舗数の減少までに至っていない。長らく空き店舗が続いている物件は住居一体型のものや床面積が広い物件が多い。

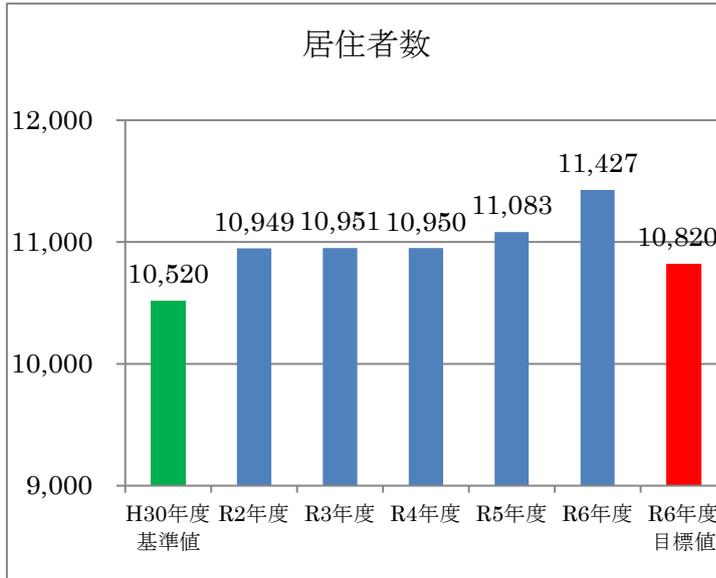
### ●今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗して、新規出店店舗数は好調の一方、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により増加した空き店舗数はコロナ禍以前の水準には戻っていない。今後も、姫路商工会議所とも連携しながら、中心市街地空き店舗対策事業や街なか創業支援事業を積極的に活用してもらえよう創業・起業を希望する方への周知・PR に努め、令和11年度末時点で27店舗の目標の達成を目指す。

### (3) 「居住者」 (目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 96～P. 97 参照

●調査結果と分析



年度	数値
H30	10,520 人 (基準値)
R2	10,949 人
R3	10,951 人
R4	10,950 人
R5	11,083 人
R6	11,427 人
R6	10,820 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年3月末）

※調査月：令和7年3月末実施、4月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

<分析内容>

居住者増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

中心市街地における居住者数は目標値を達成している。

要因としては、第1期から第3期に至るまでの中心市街地活性化基本計画の記載事業の成果により居住快適性が向上した結果と考えられる。姫路駅前の整備による公共交通(バス等)の利便性向上、生活利便性の高い商業施設のオープンや姫路駅周辺や大手前通りにおける歩行者優先の空間の整備により、中心市街地で暮らすことに対する魅力が向上し、それに伴い民間事業者によるマンション建設が相次ぎ、まちなかにおける居住先が増えたことも居住者数増加を強力に後押ししている。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 姫路駅周辺土地区画整備事業(姫路市)

事業実施期間	平成元年度～令和6年度【実施中】
事業概要	JR山陽本線等の高架用地の確保、姫路駅を中心とする南北市街地の一体化及び駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備等により、「姫路の顔づくり」「播磨の顔づくり」としてふさわしい街区の形成を図る
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(道路事業) 令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】令和6年度の居住者数：10,820人 【最新値】令和6年度末の居住者数：11,427人
達成した(出来なかった)理由	高質なストック等の利活用等により、中心市街地の付加価値を高めることで、中心市街地内での居住ニーズの増大に寄与したため。

計画終了後の状況及び事業効果	駅北側の都市基盤施設の整備を進めることで南北市街地の一体化が進み、都市機能が向上することで、歩行者にとっても快適な街になるようにする。
事業の今後について	駅北の都市基盤施設の整備を進めることで。市街地の一体化を図る交通体系を確保し、駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備改善を行うとともに、新都市拠点としてふさわしい街区の形成を図る。
<b>②. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（姫路市）</b>	
事業実施期間	平成19年度～令和6年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西地区の土地区画整理事業の施工により、都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】令和6年度の居住者数：10,820人 【最新値】令和6年度末の居住者数：11,427人
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、事業目標値である484人の居住者数増加（新規住宅の供給200戸×本市の現況平均世帯人員2.42人/世帯：他の主要事業も含む計画区域内の合計値）に対して、当該事業区域内の居住者数ではこれまでに161人増加（自然増減数を含む）となったため。
計画終了後の状況及び事業効果	都市基盤施設の整備を進めることで南北市街地の一体化が進み、都市機能が向上することで、まちなかでのライフスタイルの多様性につながり居住快適性が増進され、「居住者数」の増加に寄与する。
事業の今後について	本地区は公共施設の整備が不十分なまま市街化し、土地利用が無秩序に混在化していたことから、本事業は、都市基盤施設の整備改善並びに宅地の利用増進を図り、姫路市の主核に相応しい計画的な市街地として再生することを目指す。
<b>③. 県立はりま姫路総合医療センター連携事業</b>	
事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	【必要性】 播磨姫路圏域において安定的・継続的に高度で良質な医療を提供できる体制を構築するとともに、地域医療人材の確保にも取り組む事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】令和6年度の居住者数：10,820人 【最新値】令和6年度末の居住者数：11,427人
達成した（出来なかった）理由	安定した地域医療を提供できる拠点を整備することでまちなかでの居住快適性が高まり、「居住者数」の増加に寄与したため。
計画終了後の状況	高度で専門的な医療サービスを提供できる体制を構築する

及び事業効果	ことにより、地域住民の心理的安全性と生活の質の向上をに繋がった。
事業の今後について	順次機器及び病床を拡充させ、広域的な活力向上に貢献する都市機能の充実を図る。

### ●今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。

姫路市の将来推計人口より当計画による施策がない場合の5年後の推定人口が 10,804人 (▲295人) となる。

下記事業を実施することで、居住者増加を図る。

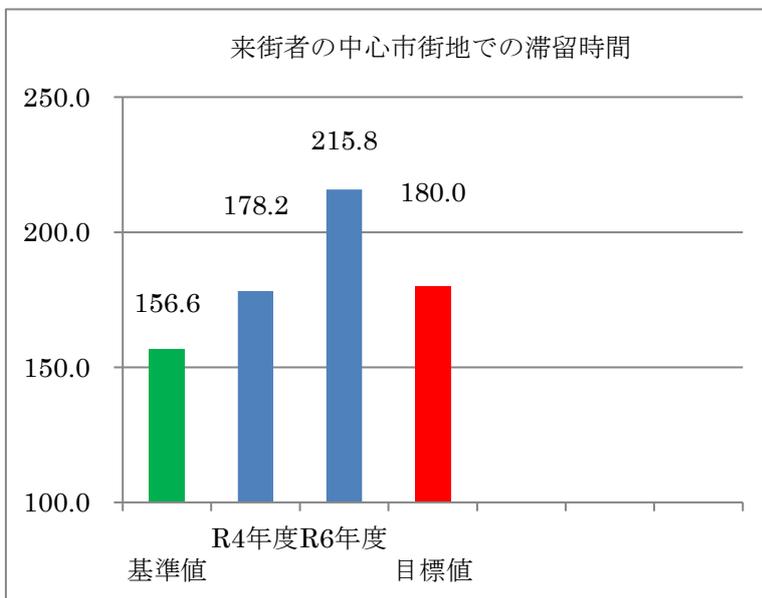
- ・ハード事業により環境が整備され、居住快適性が向上し新たなマンション建設等の促進
- ・ソフト事業による都市機能の増進による都市の魅力が向上、大手前通り魅力向上推進事業によるイルミネーションの実施や大手前通りにおけるほこみちの活用により「住みたいまち」としてのブランド力が向上
- ・事業による公共交通の利便性が向上

上記の事業効果により、計画中新たに160戸程度の新規住宅の供給を見込み、当該住居へ中心市街地平均世帯人数(1.8人/世帯)が新たに入居する者と仮定し、事業効果により増加が見込まれる居住者数は1.8人×160戸=288人

よって、事業効果も踏まえ、居住者数の目標値は11,100人(≒11,099人-295人+288人=11,092人)の達成を目指す。

※補完目標「来街者の中心市街地での滞留時間」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方は認定基本計画P.97参照



年度	数値
R1	156.6分/人(基準値)
R4	178.2分/人
R6	215.8分/人
R6	180.0分/人(目標値)

※調査方法：調査員によるアンケート形式のヒアリング調査

※調査月：令和6年9月

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地を訪れる15歳以上の男女

<分析内容>

来街者の中心市街地での滞留時間増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗し、来街者の中心市街地での滞留時間は目標値を達成した。

立ち寄り先について、令和4年度調査は駅前の商業施設に偏っていたが、令和6年度調査では「二階町・西二階町の商店街」「姫路城」の駅から離れたスポットの回答率が増加しており、来街者の訪問先が駅前から中心市街地内の複数のエリア・施設へ波及していることが読み取れる。また、観光目的の来街者の割合の増加も顕著である。基準値である令和元年度の観光目的での来街者の割合は10.9%、令和4年度では4.0%であったが、令和6年度は24.6%と増加している。

コロナ禍を経て社会が新しい生活様式に適応し、以前よりも多くの観光客が中心市街地に来街していることがうかがえる。

## ●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

### ①. リノベーションまちづくりの推進（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	空き店舗等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和3年3月、令和6年4月～令和7年3月）</li> <li>・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（姫路城周辺地区）令和3年度～令和5年度）</li> </ul>
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>【事業目標値】 来街者の中心市街地での滞留時間 180.0分/人</p> <p>【最新値】 令和6年9月調査結果：215.8分/人</p>
達成した（出来なかった）理由	リノベーションまちづくりによる姫路駅西地区のエリア再生に向けて、意欲のある市民を対象としたリノベーションスクールを、令和3年度中に2回開催した結果、事業継承1件、空き家活用事業1件が誕生した。令和4年度は民間事業者同士のディスカッションで姫路駅西エリア全体の価値を見出し、それを基にアクションプランを策定した。その結果、第三土曜日に既存店舗と合同で朝市を開催するに至った。令和5年度には目指すべき将来像を議論しあい、コンセプトブックとしてまとめるなど、エリアが一体となり魅力的な街づくりを進めたため。
計画終了後の状況及び事業効果	地域課題の解決に向けてエリアが一体となりリノベーションまちづくりに取り組むことで、民間事業者同士の結束が深まり、エリア価値がさらに向上することでわざわざ立ち寄りたくなる「目的地」となることで、中心市街地での「滞留時間」が増加に寄与する。
事業の今後について	姫路駅西エリアを中心に、民間事業者のノウハウを用いた遊休不動産の活用を通して地域課題の解決に取り組むリノベーションまちづくりを推進する。

## ●今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。

姫路城周辺施設や商店街の周知・連携、ウォークブル推進計画や大手前通り魅力向上推進事業等により、魅力的な目的地を創出し立ち寄り先や滞留空間の延長することなどエリアマネジメントの構築に向けた取組みによって、来街者の中心市街地での滞留時間の10.9分増加を目指す。